

学習の積み重ねを大切にした国語の授業作り ～3年生「せつめい名人になろう！」の実践～

新発田市立川東小学校

教諭 三部 美和子

1 はじめに（国語授業における自身の課題と目指す子ども像）

「自分は、学級の子どもたちに国語の力を付けられているのだろうか」という不安と「算数を教えるのは楽しいのに、国語を教えるのは苦しい」という感覚。これは、教員になってからずっと私の心の中にある。

算数の授業では、初めての問題に出会ったとき、子どもたちは、「今までに学習した〇〇を使えば解けそうだ」と既習事項を取り出し、自力解決や学び合いの中でいきいきと問題を解いていく。そして、新たに身に付けた知識や技能を習熟するために反復練習をし、また新たな問題を解決するための確かな力を身に付けていく。子どもも担任も学習の積み重ねが実感できるところが楽しい。

本来なら、国語の授業でも同様の楽しさを感じられるはずである。それなのに、私の国語授業では、算数のようにいきいきと既習事項を取り出し、主体的に問題を解決していこうという子どもの姿が少ないように感じられるのだ。新採用の頃、「読みの観点」という言葉を教わってから、国語授業への不安は少し軽減され、どんな教材でも使える「読み方」や「書き方」（＝国語の力）を指導してきたつもりになっていた。でも、実際には、何かしらの要因で学びの積み重ねが上手くいっていない感じがする。その原因について、自分の国語授業を振り返ってみると、反省すべき点がいくつかある。

△ 国語の「用語」を含む既習事項が定着していない。

自分では、どんな教材文・題材でも使える「読み方」や「書き方」を教えているつもりでも、学習者にとっては、その「力」が他教材で主体的に活用できる力として身に付いていない。「要点」「要旨」「文章構成」「三部構成」など、一度は学習したはずの用語も、次の単元では「そうだったか?」「そういえばそんな勉強したかも」程度の曖昧な記憶になってしまっていることが多い。

△ 国語の授業で、既習事項の取り出しという感覚を育ててこなかった。

△ 他教科では、学習内容の定着を図るために反復練習をさせるのに、国語で学んだ「書き方」「読み方」については、学んだ力を繰り返し使う場が少なく、習熟しない。とりわけ、「書き方」については、日記や作文などで学んだことをいかす機会があるが、「読み方」に関しては、練習不足感は否めない。

このような反省を踏まえ、国語授業の改善を図り、次のような子どもを育てたいと考えた。

学習した「読み方」「書き方」を活用し、三部構成や段落の役割を意識して文章を読んだり書いたりできる子

2 手立て

目指す子ども像に迫るため、1年間、次のような方法で国語の授業改善に取り組む。

① 「パワーアップ教材」（以下P教材と表記）の位置付け

教科書教材だけでは、物語文・説明文は学期に1～2回しか出てこないため、単元の中に、教科書教材で学んだことを活用する場として「パワーアップ教材」を位置付ける。学習した教科書教材に似た構成の文章を、他の教科書会社や既習の学年の教材文から探し、自力読みをさせる。

② 「読む」「書く」「話す・聞く」3領域の関連

全領域で同形式の文章構成表を用いる。文章構成表を書く機会をできるだけ多く確保することで、文章構成や段落の要点、段落の役割などを考えることに習熟させる。

③ 身に付いた「国語の力」を児童と共有する

既習事項の取り出しや新たに身に付いた力を意識させるために、学習前の自力読みと学習後の振り返りを大切にする。初発の感想は、既習の「読み方（読みの観点）」に沿って書かせ、学習後の振り返りと比較しやすくする。

3 実践の概要

【実践1】まとまりをとらえて読もう（プレ実践）

- (1) 教材名 基 本「言葉で遊ぼう」（光村図書・3年上）
 P教材「こまを楽しむ」（光村図書・3年上）

(2) 指導の実際

	学習活動	指導の実際
1次	学習した「読み方」を使って読もう （自力読みによる既習事項の取り出し）	残念ながら、低学年での学習をふり返っても、文章の種類が「説明文」であるということの他には、出てこなかった。
2次	説明文のつくりを学ぼう 「言葉で遊ぼう」	上記の実態を踏まえ、次のことを中心に学習した。 ① 「問い」と「答え」 ② 段落（形式段落） ③ 三部構成（「はじめ」「中」「おわり」）を構成表にまとめる。 ④ 重要語句「このように」
3次	まとまりに気をつけて自力で読もう 「こまを楽しむ」	自力読みで構成表にまとめ、学んだ「読み方」の習熟を図った。 自力読みの実態を見て、新たに学習活動を入れ、さらに次の点を学習した。 ⑤ 意味段落 （「中」は、2つのまとまりに分けられること） 2つの説明文の書き方についての振り返りを行った。
4次	2つの教材文の書き方を真似て、発明したこまを紹介しよう	教材文と同様の形式で、自分が「あったらいいな」と思うこまを紹介する文章を書いた。

<パワーアップ教材&書く活動で見られた成果と課題>

- パワーアップ教材に位置づけた「こまを楽しむ」は、直前に学習した「言葉で遊ぼう」に類似している説明文のため、自力読みでは、次のような既習事項の取り出しができた。
 - ・ 「問い」の文が2つある。
 - ・ 三部構成の「中」には、問いの答えが6こある。
 - ・ 「このように」という言葉に注目したら、三部構成の「おわり」が見つけられた。
- ほとんどの児童が、「問いの文」（話題提示）と「答えの文」（具体例）、「このように」という言葉に着目し、正しく三部構成をつかむことができた。
- 『中』の部分では、「最初の一文を読むと問いの答えが見つけれられる。」と振り返った児童が多かった。それぞれの段落の中にも大切な文があることを学ぶことができた。
- △ 三部構成については、自力でつかむことができたが、「中」が2つの意味段落（「回る様子」を楽しむこまと「回し方」を楽しむこまの例）に分かれていることに自力で気付く児童はいなかった。そこで、「おわり」（全体のまとめ）と「中」を交互に読みながら、「中」を2つのまとまりに分ける活動を行い、意味段落について指導した。

【実践2】 せつめい名人になろう！（本実践）

- (1) 教材名 基本「すがたをかえる大豆」(光村図書・3年下)
P教材「ミラクル ミルク」(学校図書・3年上)

(2) 単元のねらい

- 中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解することができる。【読む】
- 目的に適した事例を複数挙げながら、「はじめ」「中」「おわり」の三部構成で、姿をかえる食品について説明する文章を書くことができる。【書く】

(3) 単元の実際 (全14時間 読む6時間+書く8時間)

次	時	学習活動
1	1	◎ 習ったことを使って自力で読んでみよう。(既習事項の取り出し) ◎ 感想をまとめ、学習の計画を立てよう。 ↓ <単元を貫く言語活動> 変身する食べ物を探して説明し、「ミラクル食べ物事典」を作ろう。

<既習事項の取り出し>

教材文を一読した後、学習した「読み方」で分かったことを書くと、次のような実態が見られた。

- 段落の数が分かる・・・・・・・・・・100%
- 三部構成を見つけられた・・・・・・・・79%
- 「問いの文」を探そうとした・・・・・・・・100%

ところが、「問いの文」に関して意見が分かれた。1段落目の「なんだか分かりますか」が「問いの文」であるという児童とそうでないと考える児童に分かれた。そこで、この文章の「問いの文」を考えると授業を進めた。

～「なんだか分かりますか」は「問いの文」である派の意見～ ・ 文の終わりが「ますか」とたずねる言葉だから、問いの文だ。 ～「なんだか分かりますか」は「問いの文」ではない派の意見～ ・ 問いかけてはいるけど、すぐに「それは大豆です。」と書いていて、大豆を紹介しただけ。 ・ 本当は、「それは大豆です」より伝えたい大切なことがある。
--

結局、1学期の学習で「問い」の答えが三部構成の「中」にあったことから、「中」を読んでみるようになった。そして、全員で検討した結果、「なんだか分かりますか」は、この説明文の大切な問いの文ではなく問いかけ表現だと気付くことができた。さらに、「すがたをかえる大豆」に隠れている大切な問いの文を作る活動を行い、三部構成の「はじめ」の部分に「大豆をおいしく食べるために、どのようなくふうをしてきたのでしょうか」という問いの文を作ることができた。

既習事項の取り出しを意識することで、個人の読む力はもちろんだが、学級全員が共通の土俵で話し合えるという点でも成長が見られると感じた。

次	時	学習活動
2	2 5 6	◎ 「問いの文」を探そう。→作ろう。 ◎ 「中」をくわしく読み、大豆をおいしく食べるための工夫と食品を見つけ、文章構成表にまとめよう。 ◎ 「中」をさらに2つのまとまり（意味段落）に分けよう。 ◎ 「中」の書き方の工夫を考えよう。(接続語、工夫→食品の繰り返し)

< 「すがたをかえる大豆」で書いた文章構成表 >

おわり	中		はじめ	三部構成 意味段落	題名
⑧ まとめ この食べ方がよさそうなの理由	⑦ 取り出し時期や育て方をよく知った食料品店 (大豆、もやし)	⑥ ⑤の形のまま、たりにたり、 やわらかくおいしくする。くふう。 (豆まきの豆に豆)	② 大豆のしゅつかい。昔からおいしく食べへる 工夫をしてみました。	① ほとんど毎日食べている大豆 形式段落	すがたをかえる大豆
③ ④の まとめ	④ ③の形のまま、たりにたり、 やわらかくおいしくする。くふう。 (豆まきの豆に豆)	⑤ たいせつな食べ方だけではなく、 おもしろい食べ方をする。くふう。 (豆まき)	③ その形のまま、たりにたり、 やわらかくおいしくする。くふう。 (豆まきの豆に豆)	① ほとんど毎日食べている大豆 形式段落	
③ ④の まとめ	① ② の → ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ の		① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ の	役割	

文章構成表には、次の5つの項目を書くようにした。

- ① 題名
- ② 三部構成
- ③ 形式段落 (番号と要点)
- ④ 段落の役割
- ⑤ 意味段落

1学期の説明文学習を思い出し、多くの児童が自力で構成表を書くことができた。

隠れた問いの文を全体で作った後に文章構成表を書いたため、三部構成は全員が正しく把握できた。説明文で大切な「問い」と「答え」の関係や重要語句「このように」に注目する読み方が、ずいぶん定着した。

次	時	学習活動
3	7	<ul style="list-style-type: none"> ◎ パワーアップ教材「ミラクルミルク」を自力で読み、文章構成表にまとめよう。 ◎ 2つの教材文を読んで分かったことについて、ふり返ろう。

< 「ミラクル ミルク」を読んで全部自分で書いた文章構成表 >

おわり	中		はじめ	三部構成 意味段落	題名
⑧ ⑦の まとめ	⑦ ミルクのミラクルは、ミルクがキのミル ヘカトに物(チーズのほい)	⑥ ミルクの中のミラクルは、 かかたよた物(ヘカト)	⑤ ミルクの中のミラクルは、 かかたよた物(ヘカト)	④ ミルクの中のミラクルは、 かかたよた物(ヘカト)	ミラクルミルク
③ ④の まとめ	④ ミルクの中のミラクルは、 かかたよた物(ヘカト)	⑤ ミルクの中のミラクルは、 かかたよた物(ヘカト)	⑥ ミルクの中のミラクルは、 かかたよた物(ヘカト)	⑦ ミルクの中のミラクルは、 かかたよた物(ヘカト)	
③ ④の まとめ	① ② の → ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ の		① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ の	役割	

文章構成表から次のような実態が分かった。

- 段落の数・・・100%
- 段落の要点・・・87%
- 問いの文・・・100%
- 三部構成の理解・・・87%

説明文の構成をつかむことに慣れてきたことが分かる。

意味段落については、「全部例だから、『中』は1つのまとまりだ」という意見と、「どれも例だけど、よく読むと、⑦と⑧はチーズのことを話しているから一つのまとまりだ」という意見が出て、検討の結果、『中』を3つの意味段落に分けた。

< 2つの説明文を学習した後の児童の振り返り >

- ・ 何個かの段落が全部同じ内容とは限らないから、□段落は何のことが書いてあるとかまとまりを考えながら読むといい。
- ・ 「問いの文」の答えを探しながら読むと、その説明文に何が書いてあるかがだいたい分かる。
- ・ どの説明文も、まとめは、「このように」という大切な言葉を使って書いている。
- ・ 「中」の部分は、一つ目は、二つ目は、など順番を示すと分かりやすい文になる。
- ・ 2つの文のように、「はじめ」で、その話題について軽く書いておくと、読む人に分かりやすい。
- ・ 中は全部同じ「例」だと思っていたけど、内容に気を付けてよく読むと、2つのまとまりに分けられることが分かった。

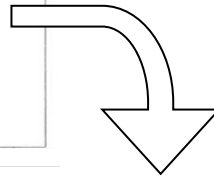
次	時	学習活動
4	8 〜 14	<ul style="list-style-type: none"> ◎ すがたをかえる食べ物について調べ、図や表にまとめよう。 ◎ 食品の例をあげて説明する文章を書こう。 ◎ できあがった文章を読み合おう。

＜「ミラクル食べ物事典」作文を書くための文章構成表＆作文＞

おわり	中	はじめ	三部構成 意味段落	題名
⑤ まとめ 多くの食べ方が考えられた理由	④ 米をうぶして、木のぼうにまきつけ、すくわのようにつくす（秋田料理のきりたんぼ） ③ 米を米麹（こうじ）でアルコールはこ（う）はて、飲み物にする（日本酒） ② その形のまままたは、おいしくする（う）はこ（う）はん	① 毎日食べている米	形式段落	すがたをかえる米
①のねい			役割	

2つの教材文で学んだ説明の仕方をもとにして、三部構成については、「話題提示」「具体例」「まとめ」という構成で迷わず考えることができた。

また、「中」についても、「身近な食べ物から順に書く」「形が残っているものとそうでないものに分けて書く」など、順序を工夫したりまとまりを意識したりして書く様子が見られた。



Handwritten text in Japanese on lined paper, corresponding to the composition table above. It includes an introduction, a main body with numbered points, and a conclusion. There are also three small images: a bowl of kiritanpo (a traditional Japanese rice dish), a bottle of sake, and a bowl of white rice.

【その他の実践】様々な場面で同じ文章構成表の活用

おわり	中	はじめ	三部構成 意味段落	題名
⑤ みでくた みでくた	④ 考え ③ 事実 ② 男子も女子も食べ物産うよる ① 度調太互した	① しよらいのらめせ七成二三年	形式段落	しよらいのらめ
			役割	

左の文章構成表は、「資料から分かったことを筋道立てて話そう」（話すこと・聞くこと）の学習で、スピーチメモとして活用した文章構成表である。

意味段落を意識して文章構成表を書いたことで、事実（資料から分かったこと）と考えの区別を意識することができた。

他にも、「聞くこと」のテスト直前で文章構成表を用いることもある。相手の話を文章構成表に簡単にメモさせることで、話の要点をつかむことに慣れてきた。

4 まとめ（成果と今後の課題）

- 本単元最後に「ミラクル食べ物事典」で書いた作文では、2つの説明文で読み取ったことをいかして三部構成や段落を意識して書く様子が見られた。「読むこと」の学習で、文章構成に気を付けて読んだ学習が「書くこと」の学習に十分にいかされたと言える。
- 「パワーアップ教材」の位置付けは、文章構成の理解の習熟という意味ではもちろんだが、「自分一人でも読める」という自信につながるという点でも効果があると感じた。
- 1年間、各領域で文章構成表をくり返し使うことで、文章構成を考えることや「三部構成」「段落」という言葉に慣れ、子どもたちが自然に使えるようになった。
また、最初の頃は文章構成表を書くのにずいぶん時間がかかったが、今では20分程度で完成させられる児童が増えてきた。そのため、国語の授業時数を使わずに、朝学習や家庭学習などでもパワーアップ教材に取り組むことができるようになった。
- 学習前に、既習の「読む力（読みの観点）」に照らし合わせて初発の感想を書くというのは、とても良かった。
新しい文章に出会ったときに使える「読み方」を探す習慣作りにもなるし、その活動で出てきた児童間の読み取りのずれや疑問を学習課題に設定することもできた。
- △ 以前よりも段落や三部構成についての意識は高まっている。一方で、「型」を学ぶことが中心になってしまい、「読みたい」「書きたい」という意識を育てることがおろそかになってしまったように思う。
「形式的なテクニック」にならず、そのような「読み方」「書き方」をすることで、どんな良さがあるのか（要旨が分かる、相手に分かりやすくなる）などを実感させながら取り組んでいくことが大切だと感じた。
- △ 今回の実践では、文章構成表を用いたが、視覚的に「中」のまとまりが分かる文章構成図にまとめる方法にも挑戦させてみたい。文章構成表には、段落の役割を書く欄は設けてあるが、全体の中での役割は見えても段落相互の関係までは分かりにくいと感じた。
- △ 今はまだ「前に学習した読み方や書き方で使える技はないか」という働きかけがあって既習事項の取り出しが可能な段階である。今後、自分の意思で「前に習ったことが使えそう」と思わせられれば、さらにいきいきと国語学習に取り組む児童を育てられると思う。
今後も、前の単元で学習したことが次の単元にかされるような国語授業を目指し、授業改善に取り組んでいく。

<参考文献>

- ・ 白石範孝「国語授業の教科書」東洋館出版社、2011年
- ・ 白石範孝「国語授業の技術」東洋館出版社、2013年